

異業種交流会の重要性について

特許情報活用研究会 in 名古屋

2 代目塾長 佐久間 幹雄

アジア特許情報研究会の皆様、この度は設立 10 周年、誠におめでとうございます。事務局長の伊藤さんはじめ、会員の皆さんの熱心な活動が研究会の名を全国に広め、10 周年に繋がっているものと思います。

私はまだブラザー工業にお世話になっていますが、今回は、レイテック社 Pat-List 研究会の名古屋版、「特許情報活用研究会 in 名古屋」の一員として寄稿させて頂きました。

私が伊藤さんにはじめてお目にかかったのは、2001 年度の日本知的財産協会の情報検索委員会においてでした。初めての情報検索委員会の印象は、地方から来た私にとっては夢のような世界でした。なんせ、DB 航海士の管理者や、湘南サーチャーの会会長さん、INFOSTA・OUG のメンバーの方々など、検索の世界では有名な方が大勢いて、さらにその OB には概念検索の生みの親と言われる方もおみえになり、すごい会合に来ているんだな、出来るだけ多くのことを吸収して帰るぞと、ほぼ毎回、懇親会まで参加しておりました。

そんな中で、私とは別の小委員会でしたが、いつも生き生きしておられ、合同委員会の懇親会になると、良い意味で、どんどん垣根を越えてくる人がいました。それが当時 JSR の伊藤さんでした。当時の印象は、「とてもパワーのある方」でした。そして 2 年目以降は、正副委員長会及び懇親会で毎月お目にかかるようになり、より親しくさせて頂くようになりました。その当時から、伊藤さんはアジア、特に中国の特許をいかに安く、簡単にサーチするかを研究されており、色々と参考にさせて頂いたのを覚えております。

知財協の情報検索委員会には、伊藤さんは 2004 年度まで、私は 2006 年度まで在籍し、お互いに後進に道を譲る形で退きましたが、他社さんとの異業種交流の魅力、重要性を感じていた私は、何か他の会合はないかと思い、2007 年からレイテック社の PAT-LIST 研究会（東京）に参加させて頂く事にしました。すると、何と伊藤さんも同時期に PAT-LIST 研究会に参加され、偶然にも同じチームになりました。その時は確か、中国特許の中国語による検索方法を PAT-LIST-CN/WEB を用いて検討した内容だったと思います。

その翌年ですかね、伊藤さんは一念発起されて、アジア特許情報研究会を創設されました。一方、私は東京の PAT-LIST 研究会にしがみ付いておったのですが、2009 年に全世界を襲ったリーマンショックの影響で、会社から出張を禁止されてしまいました。そうすると、今まで毎

月のように参加していた懇親会にも行けないので、情報も入ってこないし、この時こそ、異業種交流の重要性を身にしみて感じました。しかし、そんな愚痴をレイテックの出口社長さんにこぼしていたら、何と「それなら名古屋でも研究会を始めましょう」と仰って頂き、同じく名古屋から東京の PAT-LIST 研究会に参加されていた日本ガイシ(当時)の佐々木さんとともに、2010年から「特許情報活用研究会 in 名古屋」を立ち上げることになりました。出口社長さんには本当に感謝しております。しかも、研究会の初代塾長には、尊敬する桐山先生がご就任され、名古屋にいても勉強できる、と大喜びいたしました。

異業種交流やユーザー会、研究会がなぜ重要なのか、それはやはり検索や解析を行うための情報や、優秀な先生がいっぱい溢れているからだと思います。知財は狭い世界ですが、まだまだネットをたたくても必要な情報が得られるとは限りません。何かを特許検索したり、解析したりする際に、自分の会社の中の経験やスキルだけでは、なかなかベストエフォートを出すことは難しいと思います。そんな時に、異業種交流会などで、気心が知れた仲間に、「何か良い方法ない？」と聞いてみると、目からうろこの方法を教えて頂けたり、良いヒントが貰えたりします。また、我流で行っている方法が、果たして間違っていないのかどうか心配な時も、経験者の方々に相談できて、とても安心できたケースも何度かありました。

伊藤さんと私は、研究の方向性は若干違いますが、人と人との交流で得られる情報の重要性や、それを次世代の方々に伝えなければいけないという使命感みたいところで、すごく似ているような気がしております。これからもお互い、使命に燃えつつ、初心に帰るべき時は帰って、異業種交流の研究会を盛り上げていきましょう。いつまでも、アジア特許情報研究会が継続的に発展することを祈念しております。

(2018/8/29 受理)